

令和5年度フェムテック等サポートサービス実証事業 最終報告会資料

2024.02.26

働く女性の尿モレ（軽失禁）不安解消・
ウェルビーイング向上を図るサービスの開発と実証

代表団体 Lasiina株式会社

働く女性の尿モレ（軽失禁） 不安解消・ウェルビーイング向上を図るサービスの開発と実証

代表団体
Lasiina株式会社



代表取締役 野正竜太郎
全体管理・センサーデバイス・システム開発

参加団体
日本製紙クレシア株式会社

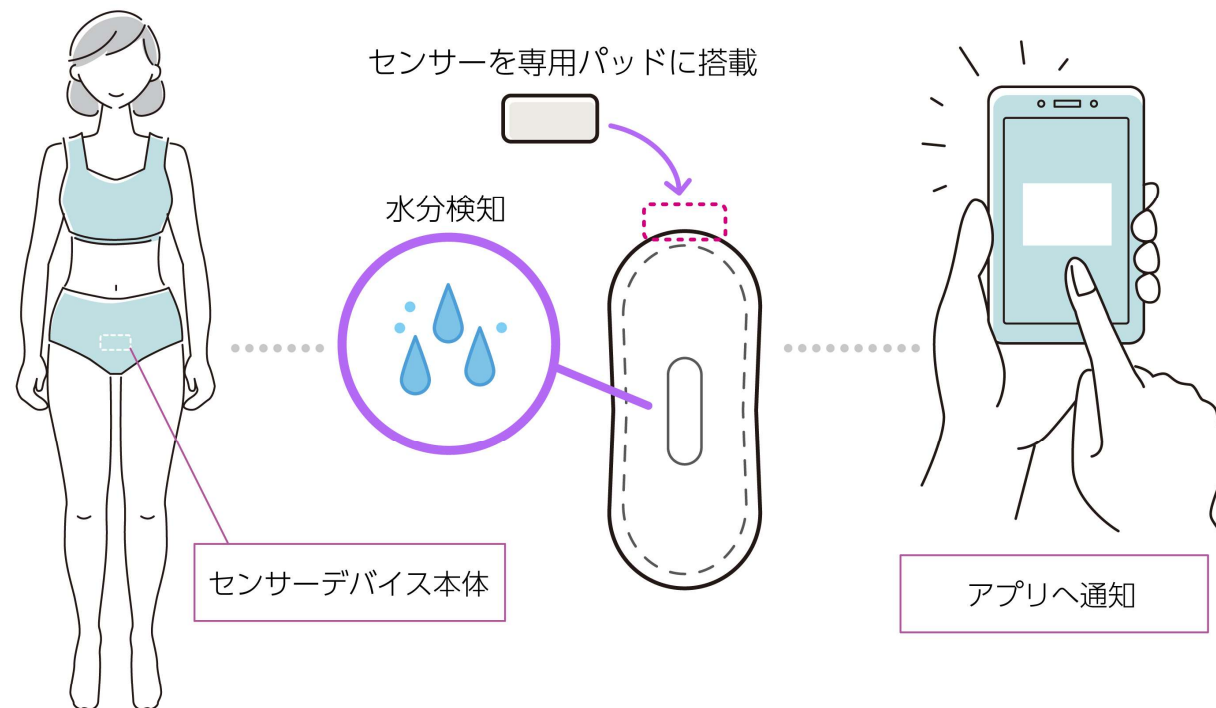


ヘルスケア研究所長代理 黒須一博
軽失禁専用尿モレパッド開発、検証

Agenda

1. 事業計画
2. 事業計画に基づき実施したこと
3. 本事業の成果
4. 本事業の課題
5. 今後の事業展開

1. 事業計画



センサー対応吸水パッドで、軽失禁の不安解消・
QOL向上を図るサービスの開発

2. 事業計画に基づき実施したこと

協力団体（実証先）：富士通株式会社

2023.10.18 FUJITRA Café オンラインイベントを開催
軽失禁の説明と、アンケート調査への協力を募った

①女性の尿モレに関する 実態調査

計画目標：30名

実施結果：女性32名（達成率 106%）
男性33名（※計画外）

②センサーデバイスによる モニターテスト

計画目標：10名

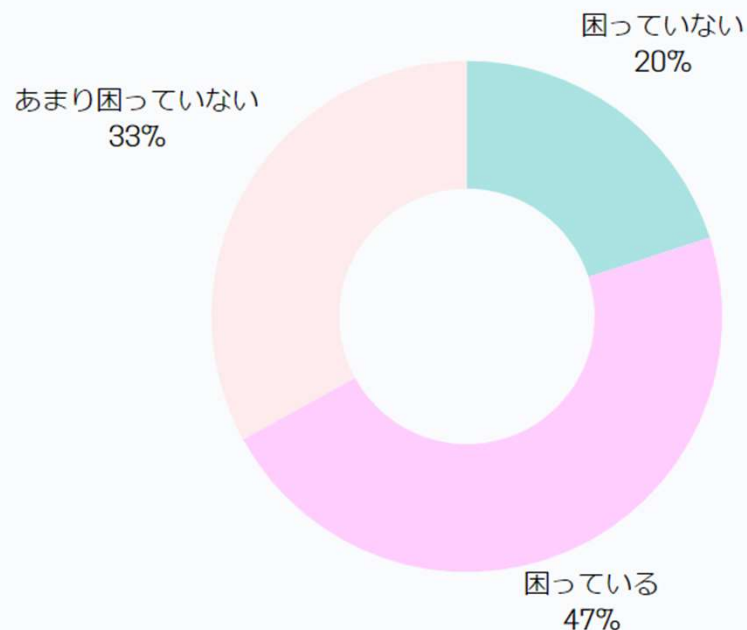
実施結果：女性12名（達成率 120%）
（※尿モレ症状のある女性）

尿モレで困っている働く女性に対して、開発中である
軽失禁向けセンシングサービスの有効性を検証する

3. 本事業の成果 ①女性の尿モレに関する実態調査

47%が日常生活で尿モレに困っている

日常生活でどれくらい
困っていますか？



- 忙しくてトイレに行けないときに、パッドをかなりぬらしてしまっただことがあります。とても情けない気持ちになりました。
- ふとした瞬間に漏れた場合に、とても不快な気持ちになる。
- 外出先でトイレに間に合わず、床をペーパーでふき、下着をつけず生足で次のアポ先へ移動する、という泣き出たく、他の人に言えない辛さです。

40歳以上の女性の4割以上が尿モレを経験している※
不安や不便を抱えながら、仕事や日常生活を送っている

3. 本事業の成果 ①女性の尿モレに関する実態調査 年のせいだから仕方がない



尿モレで病院にかかったことはありますか？



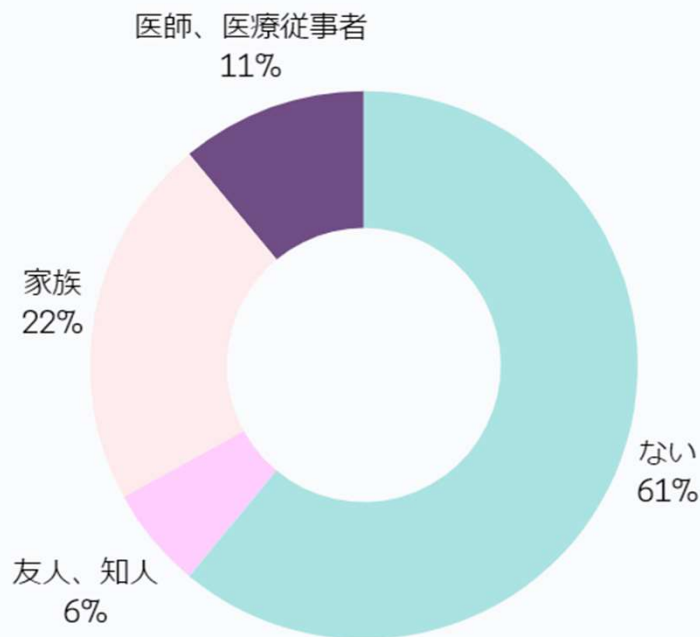
- 何科にかかったらいいのかわからない
- 恥ずかしい
- 病院にかかるまでもない
- 年のせいだからしかたない
- 病院にかかっても骨盤底筋トレーニングを勧められて終わりとあきらめているから

加齢現象だからとあきらめている女性が多い
まずは、尿モレで困っている女性への情報発信が必要

3. 本事業の成果 ①女性の尿モレに関する実態調査

61%は誰にも相談したことがない

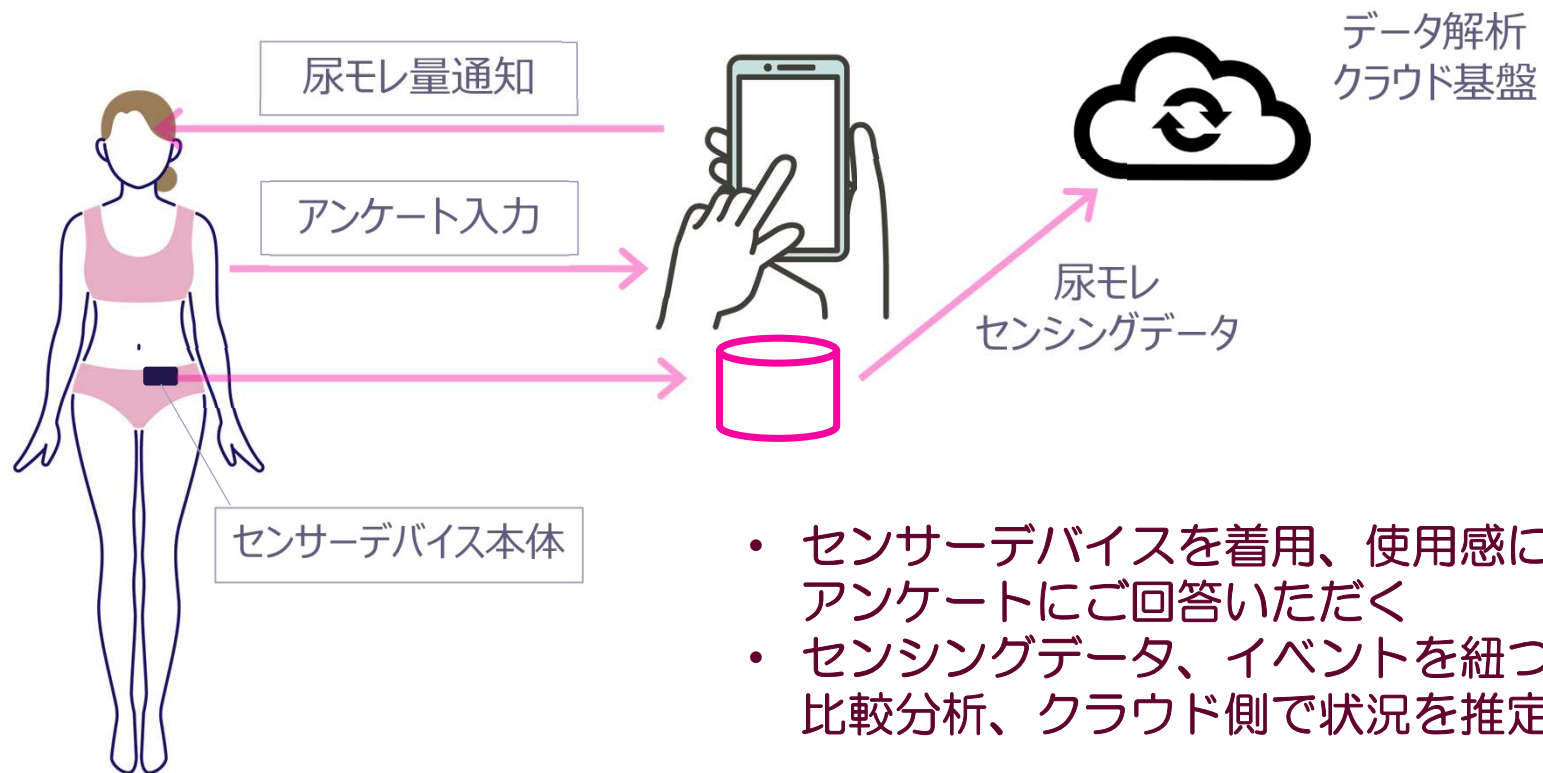
誰かに相談したことは
ありますか？



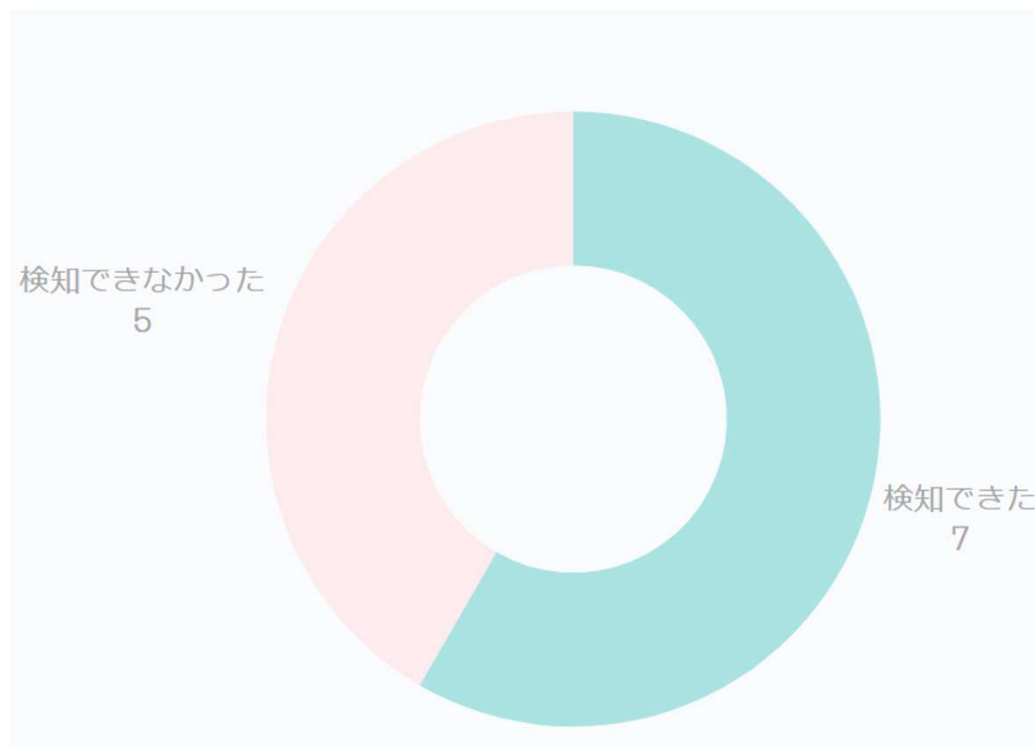
- 症状や対処法について理解できる同性のみの研修をしてほしい
- 匿名で相談して、共感し合ったり、対処のアイデアを共有できる場がほしい
- トイレ休憩などを配慮してほしい
- 職場の人に知られたくない
自分一人の問題にしておきたい
- 特に支援は必要ない

尿モレは単純に周りの理解で解決する問題ではない
「他人に知られたくない」テーマであるという認識が必要

3. 本事業の成果 ②デバイスによるモニターテスト



3. 本事業の成果 ②デバイスによるモニターテスト 58%が尿モレを見える化できた

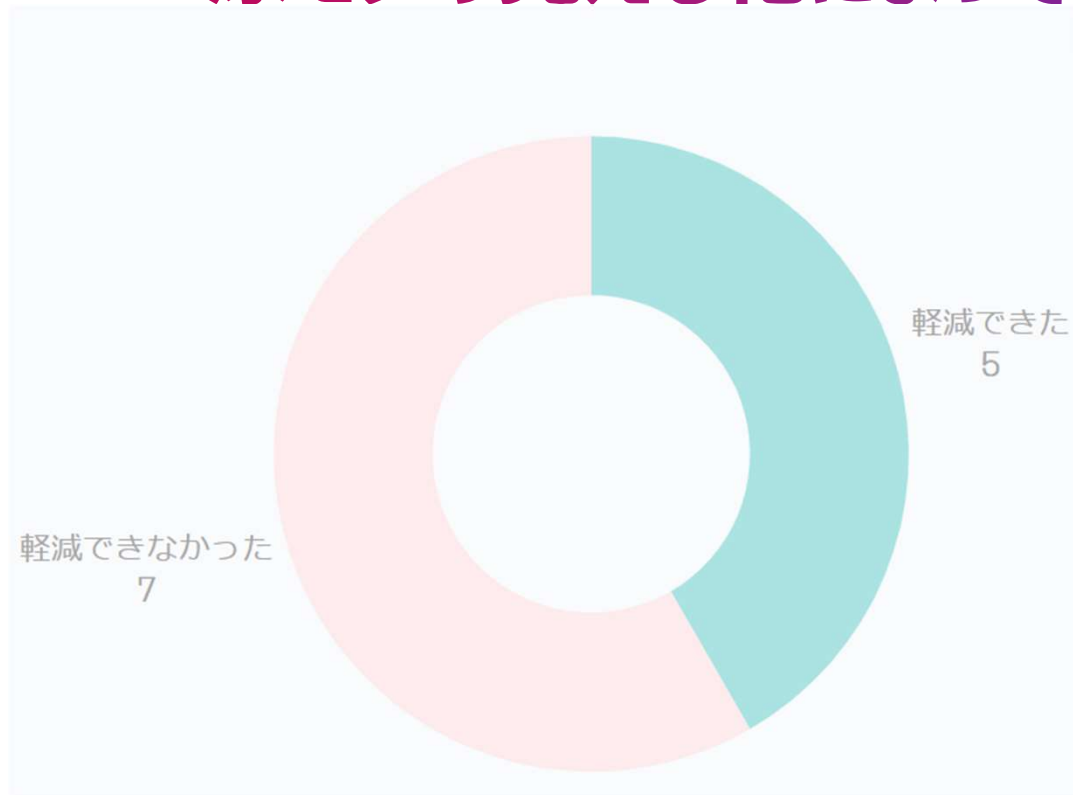


検知できなかった原因

- 尿モレの量が少なく検知できなかった
(本人は尿モレがあったと申告：3名)
- 着用実験期間中、尿モレがなかったと想定されたため
(本人は尿モレがなかったと申告：1名)
- 生理、不正出血のため実験中止 (1名)

尿モレの検知精度の問題についてわずかな量でも
検知する必要があるのか、検討する必要がある

3. 本事業の成果 ②デバイスによるモニターテスト 尿モレの見える化によって、41%が不安を軽減



軽減できた)

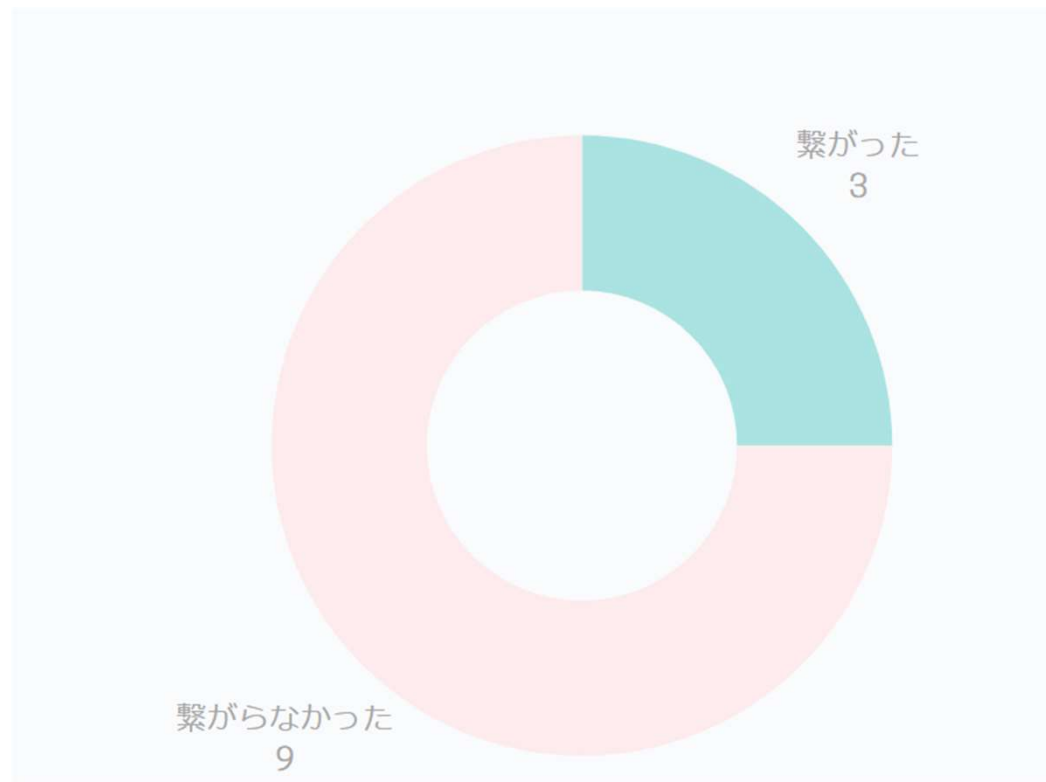
- センサーを付けたことによって、身体に意識が向き、尿モレに対してポジティブに対策できた
- 尿モレのことは後回しにしがちだったが、ケアを見直す良いきっかけになった

軽減できなかった)

- 週末在宅中のみの装着だったので、効果が実感できなかった
- 尿が漏れたという感覚は自分でわかるので、尿モレの見える化に意味を見出せなかった

尿モレに対して前向きになれた、
ケアを見直す良いきっかけになったというご意見を頂いた

3. 本事業の成果 ②デバイスによるモニターテスト 25%がアクティブに活動できるなど行動変容に繋がった



繋がった)

- ・センサーを付けていると安心感あり、久しぶりに外で運動を試みようかなという気になった
- ・トイレのことを気にする頻度が少なくなった。

繋がらなかった)

- ・センサー本体の充電がすぐなくなるので、外出時に付けようという気にならなかった
- ・見える化だけでは意味がなくて、尿モレ改善トレーニングの効果がわかるなどがあればよいと感じた。

さまざまなシーンの中で使ってもらうためには、充電の手間の軽減など、使い勝手の向上が課題であるとわかった

4. 本事業の課題

- 尿モレ検知精度の向上。センサーデバイス、尿モレパッドのセンシング構造、データ解析システムそれぞれの改善が必要である。
- 単なるセンサーの開発だけではなく、女性に寄り添ったモノづくり・サービス創出が必要であると、課題が明確になった。
- サービスをマーケットに投入した後も、尿モレに対して社会全体での理解を深め、よりオープンな議論と包括的な支援を行うための啓蒙活動を併せて推進する必要がある。

5. 今後の事業展開

- 小型化した販売用デバイスの設計、開発、製造、各種認証への対応を推進すること
- 尿モレセンサーサービスの販売体制の確立とマーケットへの販売
- 尿モレセンシングデータを起点としたサービスの開発
オープンイノベーション、共同研究の推進
（フレイル予防関連会社、尿モレ改善サービス提供会社、
尿モレ疾患に関する製薬会社、外出促進に向けた旅行会社）



ありがとうございました

Lasiina株式会社

野正竜太郎 nomasa@lasiina.com